



名古屋城 子ども博士になろう



学習シート「本丸御殿」編

一本丸御殿は、なぜ豪華なのでしょう

江戸の将軍をお迎えする
宿泊施設として
使われました



名古屋城本丸御殿は、尾張藩主の
住まいかつ藩の政治を行う場所として、
1615年(慶長20)に建てられました。

1620年(元和6)、藩主の住まいと
政治の場が二之丸御殿に移ってからは、
将軍の宿泊専用の施設となりました。

1634年(寛永11)、江戸幕府3代
将軍・徳川家光が京都へ向かう途中

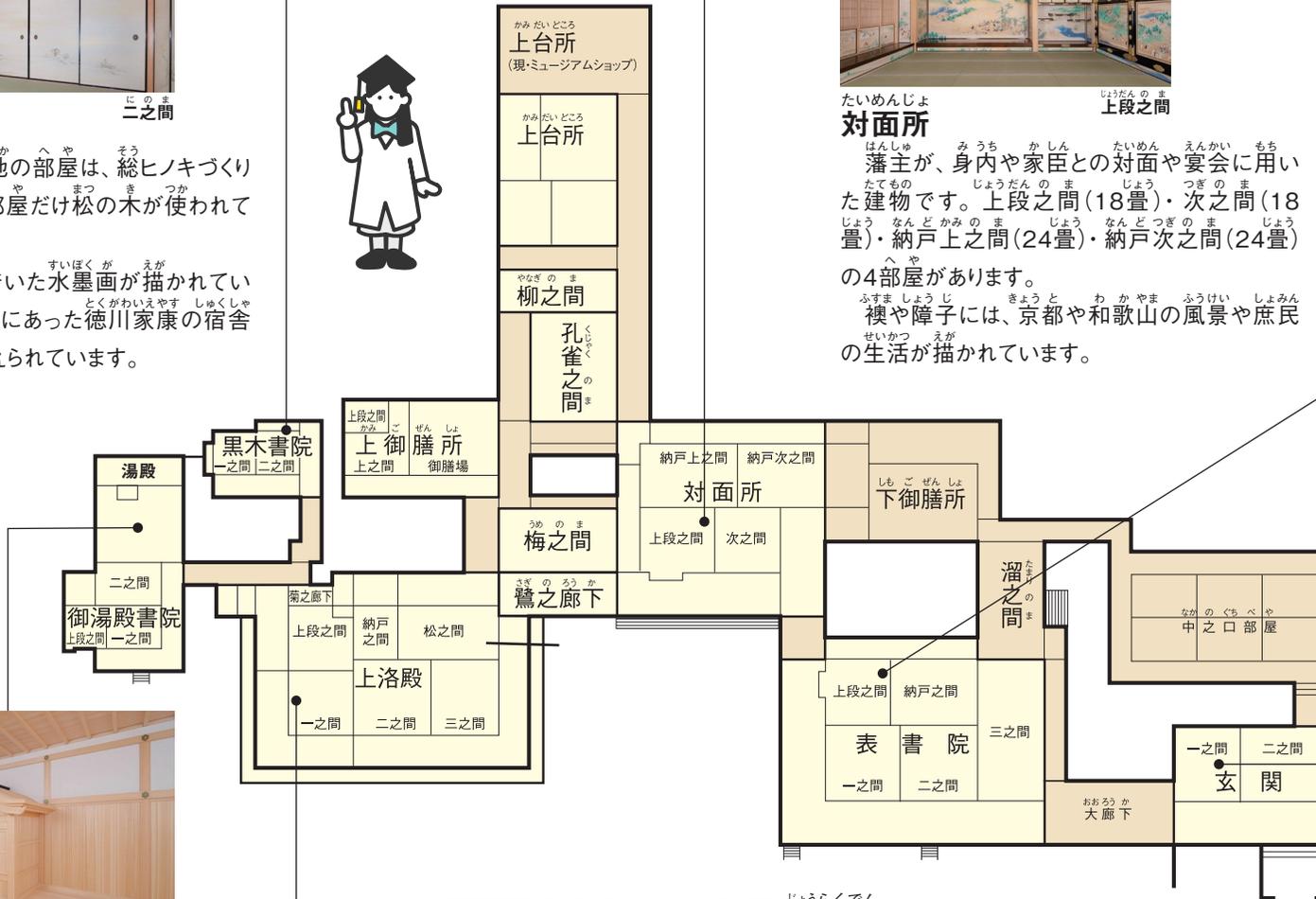
で宿泊するにあたり、その前に上洛殿、
黒木書院、湯殿書院などが、新たにつ
くられました。将軍が宿泊する施設なの
で、とても豪華で美しく、お城建築の最
高傑作と呼ばれていました。

1930年(昭和5)に、天守といっしょ
に国宝に指定されましたが、1945年
(昭和20)の名古屋大空襲で燃えてし
まいました。しかし、燃える前の写真や
図面が残っていたので、2018年
(平成30)、当時のままの姿に復元す
ることができました。





黒木書院
 本丸御殿の他の部屋は、総ヒノキづくりでしたが、この部屋だけ松の木が使われています。
 襖には落ち着いた水墨画が描かれています。清須城内にあった徳川家康の宿舎を移築したと伝えられています。



御湯殿書院
 将軍専用のお風呂です。現在の湯舟はなく、床下にある釜で湯をわかし、湯気を送り込むサウナ式の蒸風呂でした。浴室(湯殿)の他に、上段之間・一之間・二之間の3部屋があります。



いちのま 一之間



対面所
 藩主が、身内や家臣との対面や宴会に用いた建物です。上段之間(18畳)・次之間(18畳)・納戸上之間(24畳)・納戸次之間(24畳)の4部屋があります。
 襖や障子には、京都や和歌山の風景や庶民の生活が描かれています。



表書院
 本丸御殿の客間です。上段之間(15畳)・一之間(24畳半)・二之間(24畳半)・三之間(39畳)・納戸之間(24畳)の5部屋があります。上段之間には藩主が座りました。襖や障子には、花、鳥、小動物が描かれています。



玄関
 本丸御殿を訪れた人が、まず通される待合室です。玄関といっても、一之間(18畳)・二之間(28畳)の2部屋からなっています。
 壁や襖には、竹林と勇ましい虎や豹が描かれています。

上洛殿
 江戸幕府3代将軍・徳川家光の宿泊に際し、増築されました。上段之間(15畳)・一之間(18畳)・二之間(22畳)・三之間(21畳)・松之間(20畳)・納戸之間(10畳)の6部屋からなっています。
 彫刻欄間や天井板絵など、本丸御殿の中で最も豪華な建物です。

くら 比べてみよう！



ほんまるごてん なか ある たてもの へ や ふすま え てんじょうらんま かなぐ ちが
 本丸御殿の中を歩くと、建物(部屋)ごとに襖絵や天井、欄間、金具が違うことに
 きつ 気づきます。それは、それぞれの建物が、「権威と格式(身分や家柄、上下関係)」
 あ 合わせて、つか かわ たが ちが 違っていたからです。襖や壁の絵、天井、欄間、金具など
 くら を比べながら、各建物の役割を考えてみましょう。

てん じょう 天井



さおぶちてんじょうげんかん
 竿縁天井(玄関)



ごうてんじょうおもてしよいん
 格天井(表書院)



おりあ ごくみごうてんじょうおもてしよいん
 折上げ小組格天井(表書院)



くろうしめりおりあ ごくみごうてん
 黒漆塗折上げ小組格天
 井(対面所)



くろうしめりにじゅうおりあ ごくみ
 黒漆塗二重折上げ小組
 格天井(対面所)



くろうしめりかなぐつきごうてんじょう
 黒漆塗金具付格天井
 (上洛殿)



くろうしめりにじゅうおりあ まきえ
 黒漆塗二重折上げ時縁
 付格天井(上洛殿)

らん ま 欄間



さやらんま げんかん おもてしよいん
 鞘欄間(玄関・表書院)



おさらんま げんかん おもてしよいん
 箴欄間(玄関・表書院)



はならんま おもてしよいん
 花欄間(表書院)



はなざまこうしらんまじょうらくでん
 花狭間格子欄間(上洛殿)



おたくらんま じょうらくでん
 彫刻欄間(上洛殿)

かな ぐ 金具



ばいかなぐ ろうか
 俚金具(廊下)



くぎかく げんかん
 釘隠し(玄関)



くぎかく さぎの ろうか
 釘隠し(鶯之廊下)



くぎかく じょうらくでん
 釘隠し(上洛殿)



ひきてかなぐ げんかん
 引手金具(玄関)



ひきてかなぐおもてしよいん
 引手金具(表書院)



ひきてかなぐ たいめんじょ
 引手金具(対面所)



ひきてかなぐじょうらくでん
 引手金具(上洛殿)